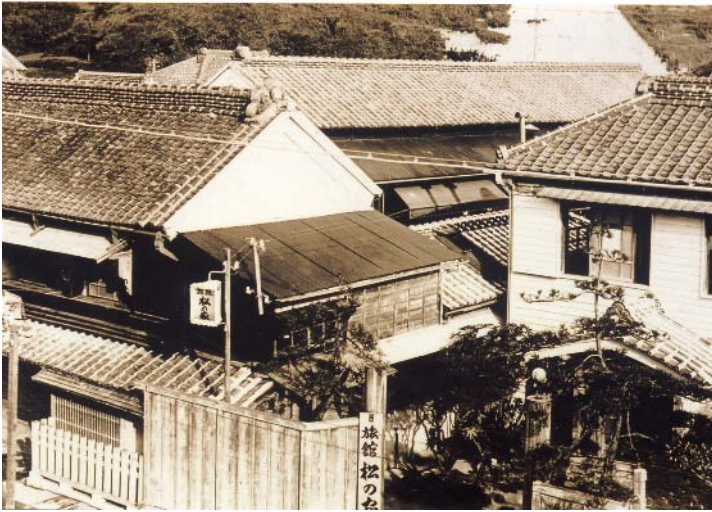


# 勝浦の観光 その一



大正時代の松の屋旅館である。現在でも写真奥の長い瓦ぶきの建物が使われている。国登録の有形文化財である。



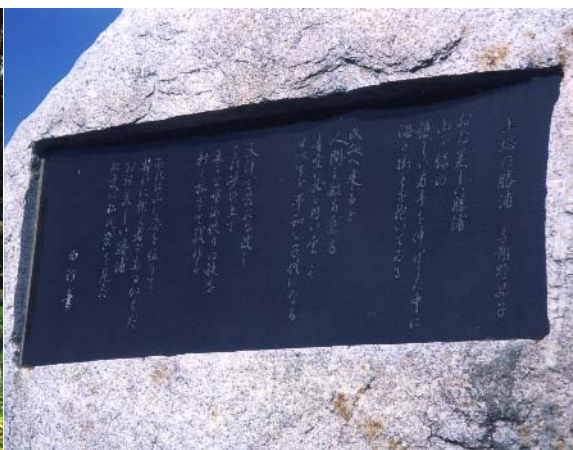
覚翁寺の裏山の山頂には昔は観光客のために展望台が作られていた。写真のてすりは山頂への山道である。

カツウラ牛乳  
搾取 販賣 榮牛舎 渡邊 権  
勝浦驛機關庫下  
カツウラ牛乳は純良濃厚にして最も新鮮なり毎日朝晝夕の三回配乳の外夏季中は海水浴客の御便宜を圖り小児用牛乳の夜分配達をなす

左は、大正時代に出版されたガイドブック「勝浦案内」に掲載された広告である。観光客のために夏場は牛乳を朝昼夕のほかに子どものために晩にも配達すると書かれている。



勝浦案内に掲載された当時の広告と現在の店の写真である。勝浦案内は大正時代に4回発行されたベストセラーで、広告は旅館、水着、お土産などが多く掲載されており、観光客用の広告が多い。



八幡岬にある斉藤茂吉の「海辺」と 与謝野晶子の「上総の勝浦」の石碑 お金持ちが品川から船で観光にきた

勝浦が繁栄していた理由の一つが観光を町づくりの戦略として、人々が心を一つにして取り組んだことがあげられる。例えば、町や旅館の主人が勝浦に各新聞社の記者を招待し、マスコミを利用し勝浦の海水浴場の記事を新聞に掲載したのである。また、各旅館は宿泊料を等級にわけ、どの旅館も等級ごとに料金を一律にし足並みを揃えたサービスをした。また、有志がお金を集め覚翁寺山頂に展望台、海水浴場に休憩所を設置し、町ぐるみで観光客を迎えた。勝浦は外房一の避暑地として、多くの人々、作家や詩人が勝浦を訪れ、街は大変賑わっていた。(編集：中村裕明)